

令和2年度 アレルギー疾患都道府県拠点病院 モデル事業 活動報告

岐阜大学医学部附属病院

①アレルギー疾患患者や家族に対する相談対応

学校現場のアレルギー対応に関する電子メール相談事業

	対応方法	時間	対応者	内容
岐阜大学	電子メール	随時	アレルギー専門医	学校および教育委員会からのアレルギー対応に対する相談を電子メールで受け付けて回答する



実際に問い合わせのあった質問の例：

- アナフィラキシーがあり入学当初より別室で食事をしてきた子を他の児童と一緒に教室で食べるようにしたいのですが、注意点はありますか？
- アナフィラキシーで救急搬送された翌々日にも症状があり、3日でエピペンを2回うちました。このようなことはあるのでしょうか？
- 持久走後のかゆみと発疹の生徒に呼吸困難などの体調に問題がなく暫く様子を見て授業に復帰させました。何かアレルギー反応の可能性はあるのでしょうか？
- アトピー性皮膚炎の重い生徒がいるのですが保健室でできることはありますか？
- 日本語の不自由な外国籍の児童生徒に対するよい相談窓口はありますか？

年度末に質問と回答を集めてQ & A集を作成し学校現場へ配付した。

②地域の医師に対するアレルギー疾患研修会の実施

医療従事者向けの研修会

	内容
アレルギーセンターセミナー	地域の医療従事者向けのセミナーを開催している。今年度は令和3年1月28日に開催した。今回は初めて外部講師を招いて、つい最近改訂された小児気管支喘息治療・管理ガイドライン2020についての講演を行い、過去最高の参加者数だった。



- 岐阜県内の医療機関に案内し、オンラインで開催。
- 参加者同士の個人情報を守るために、Web会議システムではなく、Webinarを開催するためのサービスを用いて行った。
- 過去最高の67名の参加があった。
- 登録者は内科、耳鼻科、眼科、小児科など複数の科にわたる。登録者の職種は大半が医師だが看護師や薬剤師など複数の職種の登録があった。
- Webinarとすることで、過去のセミナーに参加が難しい遠方からの申し込みも頂いた。
- これ以外に院内医療従事者向けの勉強会を、年数回開催し、診療レベルの向上に努めている。



③アレルギー疾患に対する情報提供

一般市民、アレルギー患者さん向けの情報提供

	内容
Webサイトの構築	市民公開講座の案内、医療従事者向けの案内をタイムリーに届ける事、一般市民向けにアレルギー疾患の情報発信を行う事などを目標にWebサイトを構築した。



- 市民公開講座及び医療従事者向けのセミナーの案内を掲載している。
- 市民公開講座の申込受け付けの延長やポスター作成後の情勢の変化に応じた感染対策の変更など情報を随時掲載した。
- 主なアレルギー疾患の解説を掲載している。
- よくある質問として、Q and A形式で当院の各科医師がよくある質問への回答を作成して掲載した。
- 患者さん向けのアレルギーについての情報として、患者さんにとって有用なサイトのリンクを掲載した。
- スマートフォンでも閲覧しやすいレスポンスWebデザインで作成されている。

注：市民公開講座は岐阜県の予算で実施、他の組織との共催で市民向けセミナーも実施した。



④ アレルギー疾患に係る診断等支援

アレルギー疾患患者さんに対する専門的な医療の提供

	内容
岐阜大学医学部 附属病院	アレルギー疾患の患者さんの専門的な診療の受け入れを随時行っている。必要時に、診療科をまたいで共同で診療にあたったり、また、検査技術の共有などを行っている。

アレルギー関連の紹介患者数：

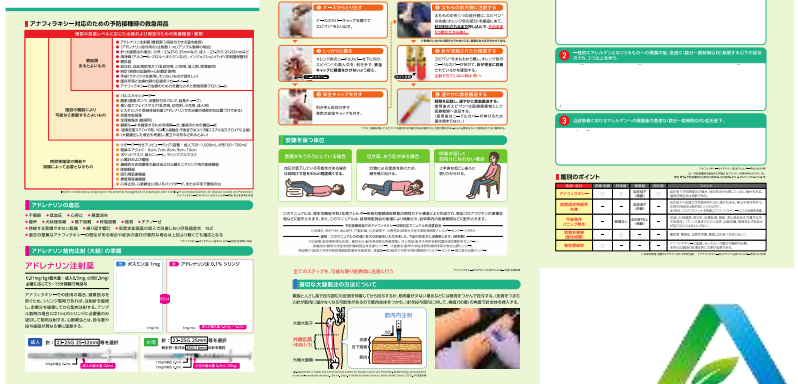
(令和2年4月1日～令和3年3月30日までの期間に、当院紹介となり、アレルギーセンター構成科へ紹介された患者さんで、各科において、当該機関にアレルギー関連の確定病名がついた人；アレルギー関連の病名：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、食物アレルギーなど)

626名（受け入れた科：総合内科27人、呼吸器内科76人、皮膚科243人、小児科144人、耳鼻咽喉科84人、眼科52人）

特徴ある診療：アトピー性皮膚炎様の皮疹を認める原発性免疫不全症の精査など、専門的な医療機関の特徴を活かした高度な診療を提供している。

予防接種現場でのアナフィラキシー初期対応マニュアルの作成：岐阜県に1400部寄附して岐阜県内の新型コロナウイルスワクチン接種会場に配付した。また、岐阜県医師会の協力で県内の医師会所属の全医療機関に配付した。

岐阜大学アレルギーセンターのWebサイトでPDFを配付した



(上記は版權上一部の図を除いて掲載している)